

# タカラジェンヌのデータ分析

塩見 翔

(関西大学等非常勤講師)

## はじめに

1914年に誕生した宝塚歌劇団(以下、宝塚)は、100年を越える歴史の中で独特の文化様式を生み出し、エンターテインメントの世界で大いに注目される存在である。宝塚に関する研究も芸術学、経営学、地域研究、そしてファン研究やジェンダー研究といった領域に広がっている。

関西出身ではない筆者が宝塚を実際に知ったのはごく最近だが、その魅力的な文化について研究していきたいと考えている。本稿ではその手がかりとして、宝塚歌劇団員(タカラジェンヌ)のデータを分析する。



図 1-1 宝塚大劇場 (撮影：筆者)

なお使用するデータは2019年4月19日現在の在団者全員が掲載されている名鑑『宝塚おとめ』(2019年度版)に基づく。

## 1 団員数とその構成

宝塚歌劇団は役者全員が未婚の女性であることは、劇団の特徴としてよく知られている。彼女たちは芝居やショーで男性を演じる人と女性を演じる人に分かれており、前者が「男役」、後者が「娘役」というのが劇団の公式名称である。ただし「娘役」については「女役」という呼称もファンやタカラジェンヌ自身によって使われており、本稿でもこの「女役」という呼称を使用していく。

それではタカラジェンヌの全体的な数値を見ておこう。2019年4月19日現在の在団者は426名であった。表 1-1にあるように、構成比では男役が約56%と上回っている。

宝塚は「花組」「月組」「雪組」「星組」「宙組」という5つの組と、ベテランを中心として各組の舞台に助演する役者による「専科」から構成されている。表 1-2に各組の所属人数と全体に占める比率を示している。専科を除くと各組の人数は70名から80名ほどである。「研究科1年」は後述する宝塚音楽学校を出て入団したばかりの新人で、4月の時点ではまだ所属する組が決まっていない。彼女たちは全員そろって初舞台を終えた後、均等に分散されて各組に配属される。

表 1-1 団員数と男役・女役比率

	人数	比率
男役	238	55.9%
女役	188	44.1%
合計	426	

表 1-2 所属と比率

所属	人数	比率
専科	14	3.3%
花	78	18.3%
月	70	16.4%
雪	70	16.4%
星	77	18.1%
宙	77	18.1%
研究科 1 年	40	9.4%

## 2 在団年数と在団者数の関係

図 2-1 はタカラジェンヌの在団年数をグラフ化したものだ。タカラジェンヌになるためには 2 年制の宝塚音楽学校を卒業しなければならないことは有名だろう。近年では音楽学校の入学定員が 40 名で、毎年の入団者も 40 名以下となっている。在団年数が上がると退団者の発生で徐々に在団人数が減少していき、2019 年の場合は 19 年目が 0 人となっている。20 年目以上はわずかに 20 名である。平均在団年数は 7 年目から 8 年目となっている（図 2-1）。わずかだが、男役は女役と比べて在団年数が長い傾向がある。

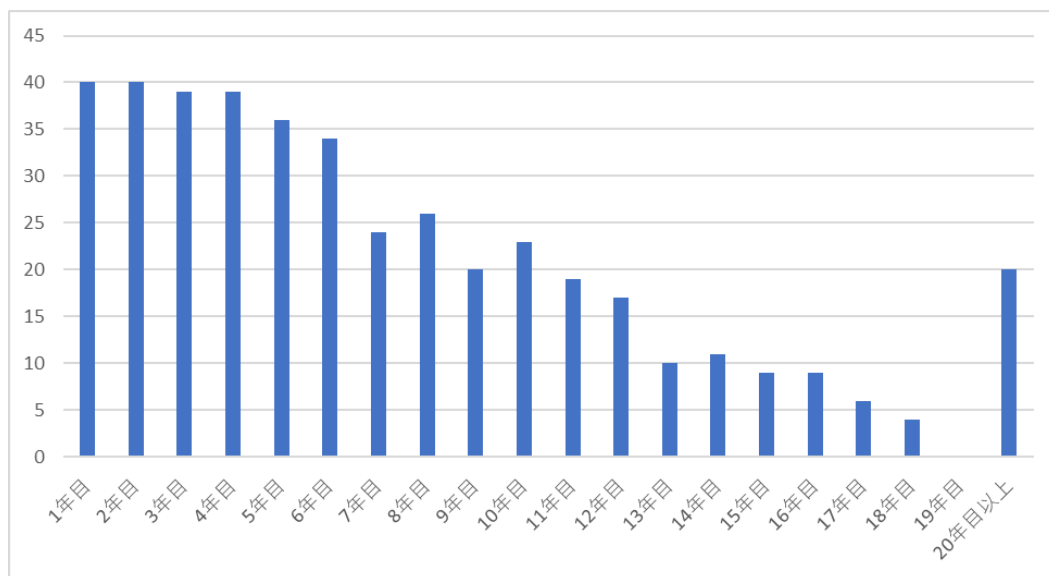


図 2-1 在団年数ごとの在団者数 (初舞台年を 1 年目とする)

表 2-1 女役／男役別・所属別平均在団年数

	全体	専科	花組	月組	雪組	星組	宙組
男役	8.2	32.1	7.9	7.5	7.6	7.8	8.2
女役	7.7	43.2	7.5	6.9	7.8	7.6	7.4

### 3 身長の平均と分布

次にタカラジェンヌの身長データを見てみよう（表 3-1）。男役の平均身長は 170.9 cm、女役の平均身長は 162.2 cm で「平成 29 年国民健康・栄養調査」によると、日本人の 20 歳から 29 歳の女性の平均身長は 157.5 cm だった。女役に限定してもタカラジェンヌの平均身長は高いといえる。

続いて身長の分布をヒストグラムとして見てみる（図 3-1）。男役と女役で平均身長は 9 cm 近い差があるが、ヒストグラムにおいては 2 つの山が存在する。1 つめの山は 162 cm 台を頂点とする女役の山、2 つめは 170 cm 付近を頂点とする男役の山だ。

山以上に注目すべきはその間にある谷だろう。166 cm 付近は女役も男役も非常に少ないが、これはどういうことだろうか。男役志願者にとって身長の高さは有利なポイントだから、宝塚に高身長の人が多く存在するのは確かである。とはいえ、様々な観点から評価される音楽学校の選抜時に、どっちつかずの身長という理由で 166 cm 付近が不利になるとは考えられない。端的にいえば、タカラジェンヌ自身が回答を寄せる『宝塚おとめ』の身長データには、「男役らしい身長」や「女役らしい身長」についてタカラジェンヌたち、そして宝塚ファンたちが考える規範が反映されていると考えることができる。

表 3-1 男役／女役別・所属別平均身長

	全体	専科	花組	月組	雪組	星組	宙組
男役	170.9	167.4	171.1	171.2	170.5	171.2	171.5
女役	162.2	160	162.5	162.3	161.8	162.1	162.8

表 3-2 身長の分布

身長	155	158	159	160	160.5	161	162	163	164	164.5	165	165.5	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	180	
男役									1		3		2	11	28	36	36	24	33	26	13	14	2	5	4	1	
女役	1	7	4	25	1	23	43	33	27	2	15	1	5														

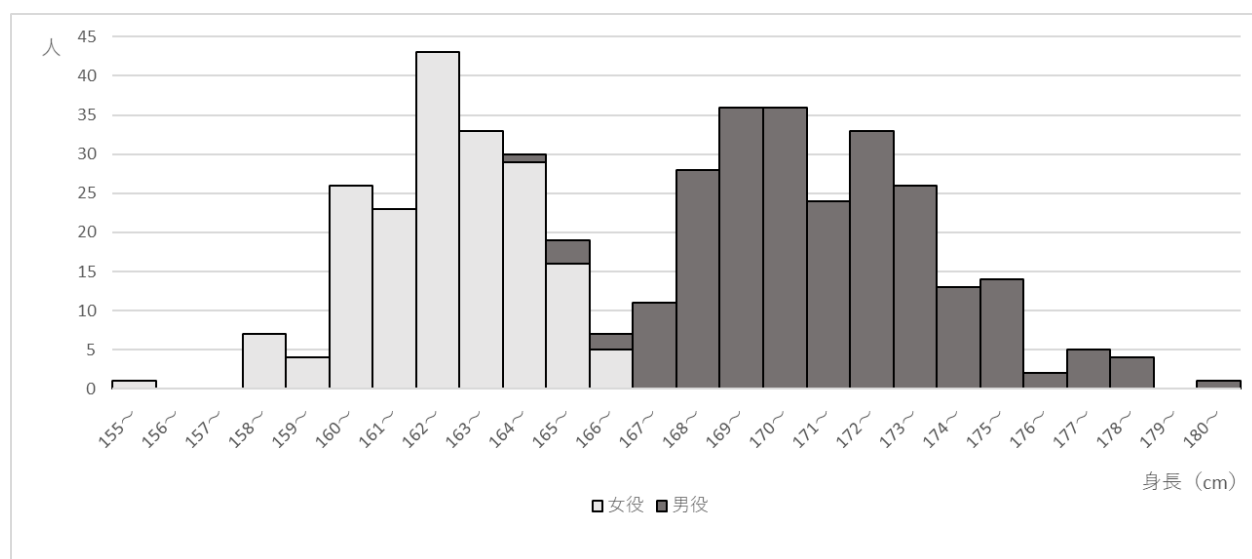


図 3-1 身長のヒストグラム

#### 4 好きな色

『宝塚おとめ』にはタカラジェンヌの趣味嗜好を示す情報も掲載されている。その中から「好きな色」に着目してみよう。「好きな色」にも男役と女役の違いが見いだせる。表 4-1 はタカラジェンヌの「好きな色」に対する回答の上位 10 色だ。複数回答方式なので「比率」（タカラジェンヌ全体の中でその色が好きと回答した比率）の合計は 100%を超えている。なお回答された色の総計は「キラキラ」「元気になる色」といった抽象的なものも含めて 103 種になる。

さらにこの内訳を見ると、男役と女役での回答傾向の違いがあることが分かる（表 4-2、4-3）。最も多い回答は男役が黒、女役がピンクで、それぞれ 30%と 40%を越えるタカラジェンヌが「好きな色」と回答している。黒とピンクについては 3 位に対して 2 倍以上の回答率を持っており、色の持つジェンダーイメージ（「男らしさ」や「女らしさ」）が男役・女役に与える影響がうかがわれる。一方共に 2 位に挙げられている白は、特に「男らしさ」や「女らしさ」への偏りを持たないとイメージされているようだ。3 位以下では男役で青や紺が上位にあり、女役ではパステルカラーが上位 10 色に複数上がっている。なお、回答された色の種類は男役 66 色、女役 68 色だった。

男役と女役の違いは研究科 1 年の時から見る事ができる（表 4-4、4-5）。ここでも男役は黒や青に対する回答が多く、女役は半数近くがピンクに回答しているという明確な違いがある。ここで取り扱っているのは 2019 年の入団者たちだけのデータではあるが、タカラジェンヌの「好きな色」は入団後徐々に「男役らしさ」や「女役らしさ」に寄っていくのではなく、音楽学校時代には方向付けられるようだ。

表 4-1 「好きな色」上位 10 色

順位	色	回答数	比率
1	白	130	30.5%
2	黒	93	21.8%
3	ピンク	86	20.2%
4	赤	66	15.5%
5	紫	51	12.0%
6	青	48	11.3%
7	水色	45	10.6%
8	紺	42	9.9%
9	ゴールド	36	8.5%
10	黄	30	7.0%

表 4-2 男役の「好きな色」

順位	色	回答数	比率
1	黒	73	30.5%
2	白	65	27.2%
3	青	44	18.4%
4	紫	40	16.7%
5	赤	36	15.1%
6	紺	34	14.2%
7	ゴールド	31	13.0%
8	水色	23	9.6%
9	黄	15	6.3%
10	グレー	12	5.0%
	シルバー		

表 4-3 女役の「好きな色」

順位	色	回答数	比率
1	ピンク	77	41.2%
2	白	65	34.8%
3	赤	30	16.0%
4	水色	22	11.8%
5	黒	20	10.7%
6	黄	15	8.0%
7	薄紫	13	7.0%
8	紫	11	5.9%
	ミントグリーン		
10	紺	8	4.3%

表 4-4 研究科 1 年男役 (21 名)

順位	色	回答数	比率
1	黒	6	28.6%
2	青	5	23.8%
3	紫	4	19.0%
	水色	4	19.0%

表 4-5 研究科 1 年女役 (19 名)

順位	色	回答数	比率
1	ピンク	9	47.4%
2	赤	4	21.1%
3	ラベンダー	2	10.5%
	ローズピンク	2	10.5%
	水色	2	10.5%
	白	2	10.5%
	薄紫	2	10.5%

## おわりに

本稿では限られた項目ではあるが、宝塚歌劇団の団員構成やタカラジェンヌの男役・女役に見られる特徴的な違いについて見てきた。今回は 2019 年度のデータを用いただけであり、時系列的な変化を示すことはできなかったが、今後は本稿で注目した特徴がいつから、どのように生じてきたのかを知るためのデータ収集・分析も行っていきたい。

## 【参考文献】

e-Stat「国民健康・栄養調査 / 平成 29 年国民健康・栄養調査」<https://www.e-stat.go.jp/> (2020 年 3 月 1 日確認)

『宝塚おとめ』(2019 年度版) 宝塚クリエイティブアーツ